

セヴァ・子ども学園の 子どもたちの元気な姿に、 笑顔あふれる

介護老人保健施設 紫雲苑 事務長 武藤 章



平成30年11月27日、セヴァ・子ども学園の年中・年長の子どもたちが合唱やダンスを披露しに来ていただきました。年中のみどり組さんは「世界中の子供たちが」の合唱と「YMCA」のダンスを、年長のしろ組さんは「Believe」の合唱と「よさこい鳴子踊り」を踊ってくださいました。最後は子どもたち全員で「北風小僧のかんたろう」

の合唱をしてくださり、可愛いしおりのプレゼントを頂きました。

セヴァ・子ども学園さんは、以前にも三幸会ふれあいまつりにて合唱等をご披露いただいたり、紫雲苑において素晴らしい演奏をご披露いただいたりとお世話になっておりましたが、ここ数年は日程調整がつかない状況でした。この間も保育園の先生とお会いする度に「ご近所なので、また交流できれば良いですね」と話をし、ようやく実現することができました。ご利用者は子供たちに来て頂けるだけで、笑顔いっぱいになります。またのご来所を心よりお待ちしております。



森乃福郎 独演会

第二北山病院 事務長 椋尾 俊夫

年の瀬も押し迫る平成30年12月25日火曜日。今日はクリスマス。ヤマザキYショップでお馴染み(株)マツコの粋な計らいにより、森乃福郎師匠の落語(独演会)が実現しました。

会場となった紫雲苑・北山病院・第二北山病院の3施設では大盛況の賑わいとなりました。落語に至る導入部分のトークは、入院患者さん・入所者さんのお体にお気遣い頂いた温かさを感じられる内容でした。

【御演目は古典落語『紀州』】

七代将軍・家継が幼くして急死し、急遽、次代将軍を決めなければならなくなった。

候補は、尾州候(継友)と紀州候(吉宗)の二人。両者を推す勢力は拮抗し、幕閣の評定は紛糾状態。

大評定(最終日)の朝、駕籠で登城する途中、遠くから鍛冶屋が槌を打つ音が聞こえる。

「トンテンカン、トンテンカン」

尾州候には「テンカトル、テンカトル」と聞こえる。これは瑞兆であると大喜び。

その尾州候、大評定の席で、大物ぶりをアピールしようとする。余は徳薄く、將軍の任ではない。

すぐに飛びつくのは何なので、一度、辞退をしてみせ、二度目

に推されれば、「嫌々ながら」と引き受ける算段である。

一方、ライバルである紀州候。「余は徳薄くして…」と全く同じこと言うではないか。

続けて「しかしながら、かほどまでに乞われて固辞するのは、御三家の身としての責任上、非常に心苦しい。しからば天下万人のため」と自分も用意していた台詞まで言われてしまい、思わぬ展開に。あえなく次期將軍は紀州候に決まってしまった。

意気消沈の尾州候。帰りに同じ場所を通りかかると、また鍛冶屋が槌を打つ音が聞こえる。

「テンカトル、テンカトル」と聞こえるではないか。

「なるほど。紀州の奴、一度引き受けておいて、後になって『私の分ではない』と余に引き受けさせようとする算段だな」ところが、鍛冶屋の親方。焼

けた鉄に水をさす。「キシュー」

(二代目) 森乃福郎 師匠のプロフィール

1972年(昭和47年)3月大学卒業と同時に初代森乃福郎に師事し、笑福亭福三の芸名で高座デビュー。2000年(平成12年)10月28日二代目森乃福郎を襲名

京都・先斗町歌舞伎練場を皮切りに東京・大阪で襲名披露落語会を開催。翌2001年から京都・大阪で年1回ずつの森乃福郎独演会を開催中。

出身地 京都府京都市
最終学歴 同志社大学・文学部・英文学科



紫雲苑会場



北山病院会場



第二北山病院会場

